

# BOYO-BOZO

ACTIVE

**To you  
I'll go  
and  
Free**

h me...  
na take you  
ll of your  
reams  
me... feel me,  
If you, it's a  
party  
time





**ACROBAT**



BOYO-BOYO











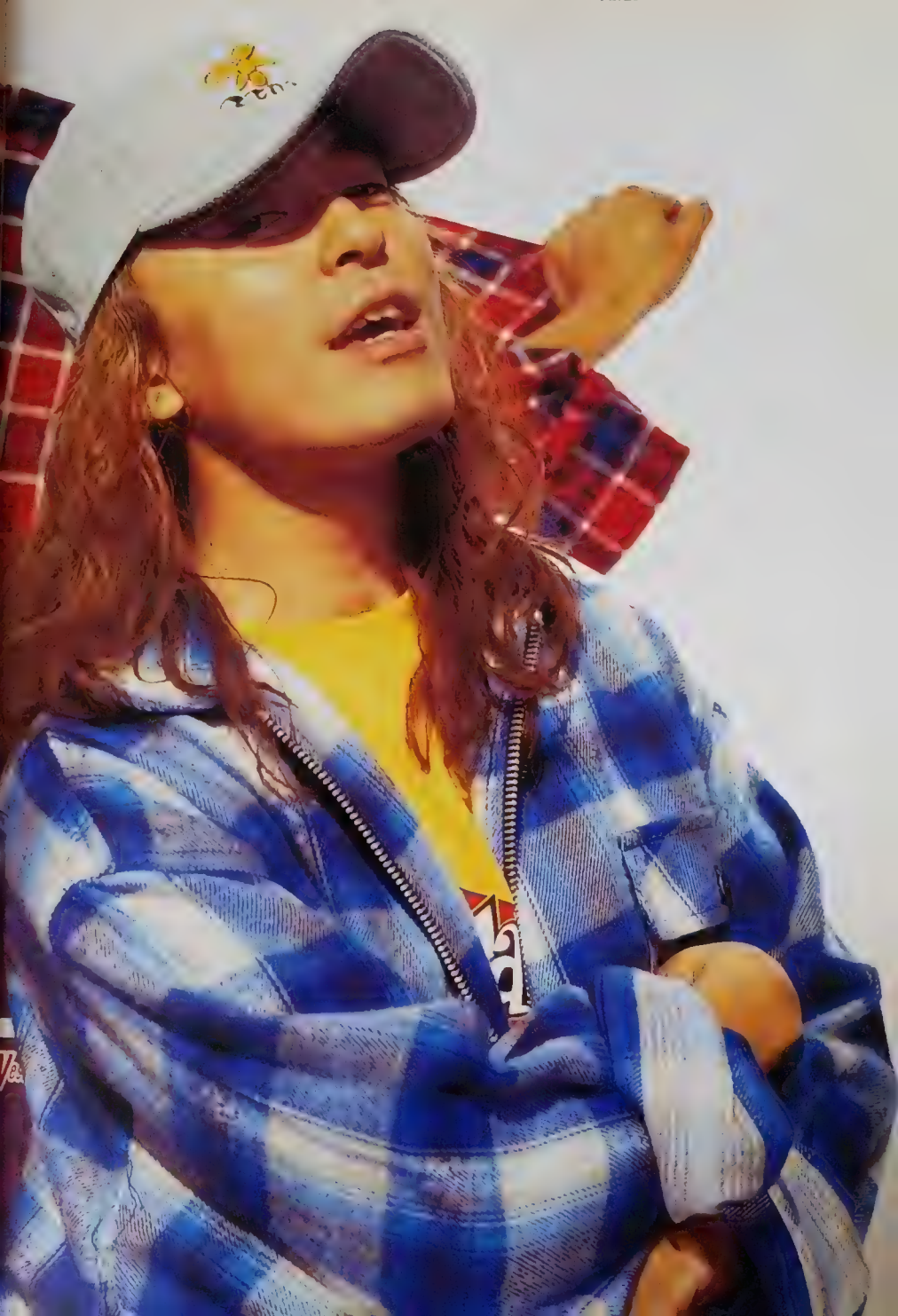






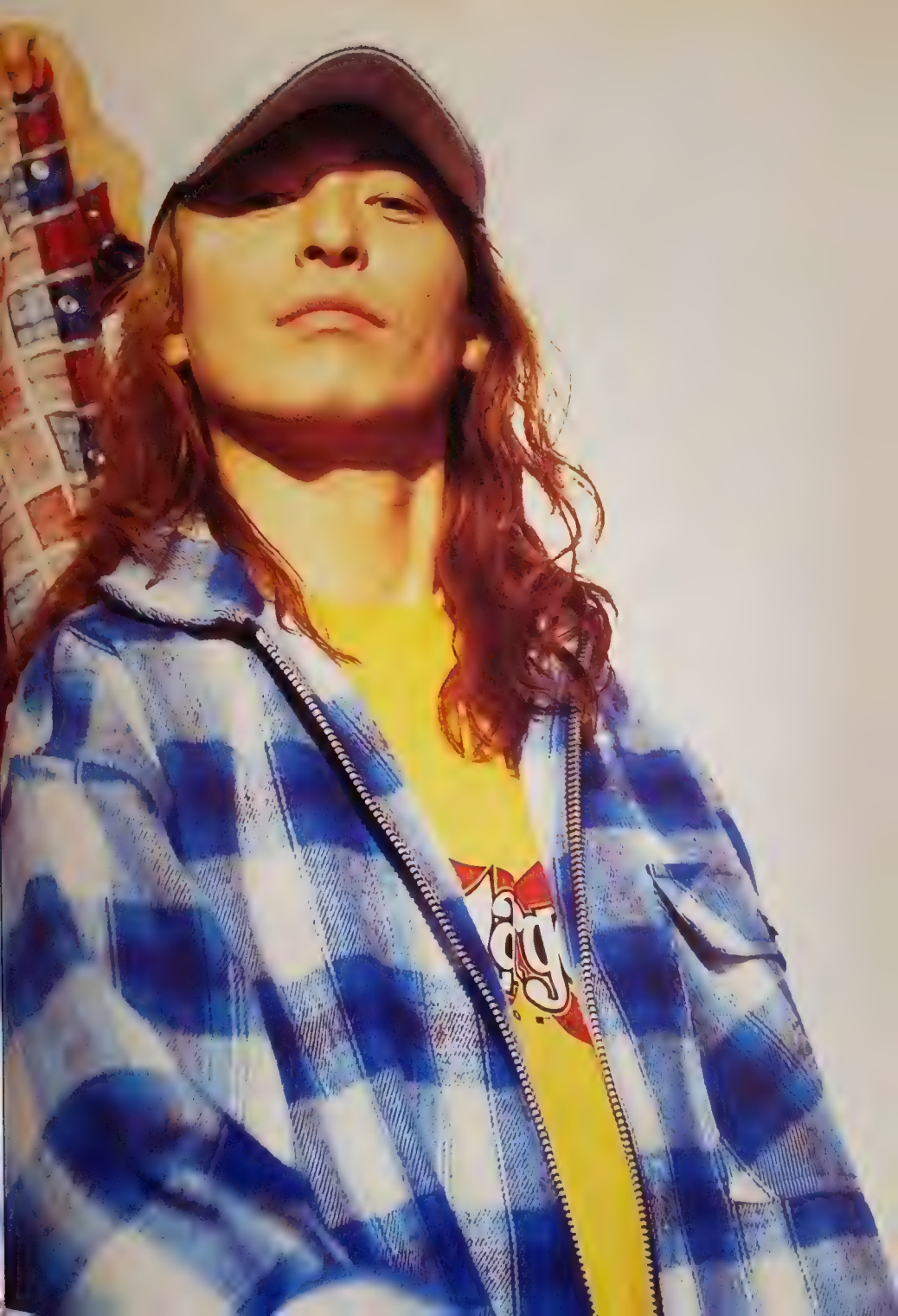














*Takashi Utsunomiya*



*Yasushi Ishii*





















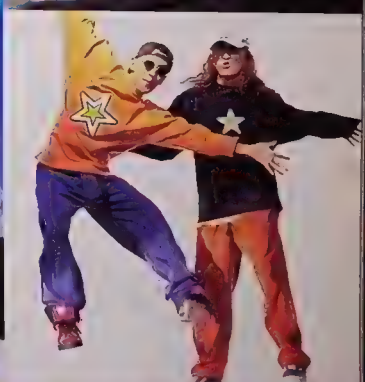
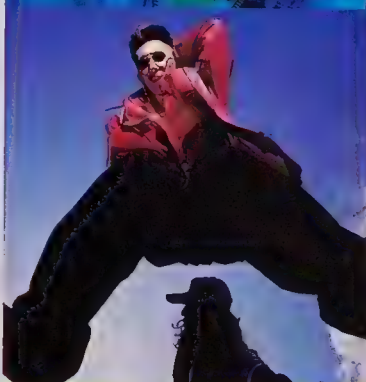
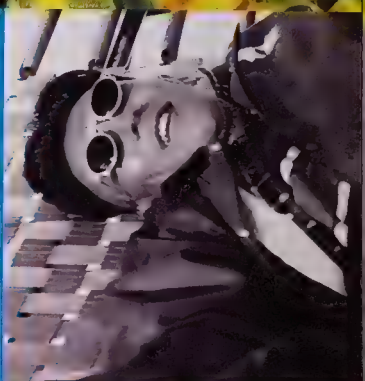
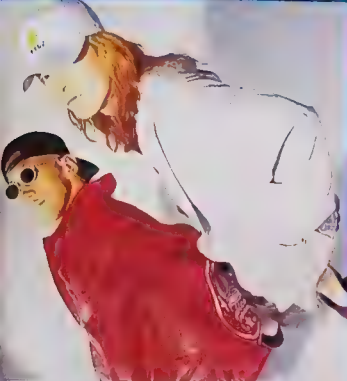




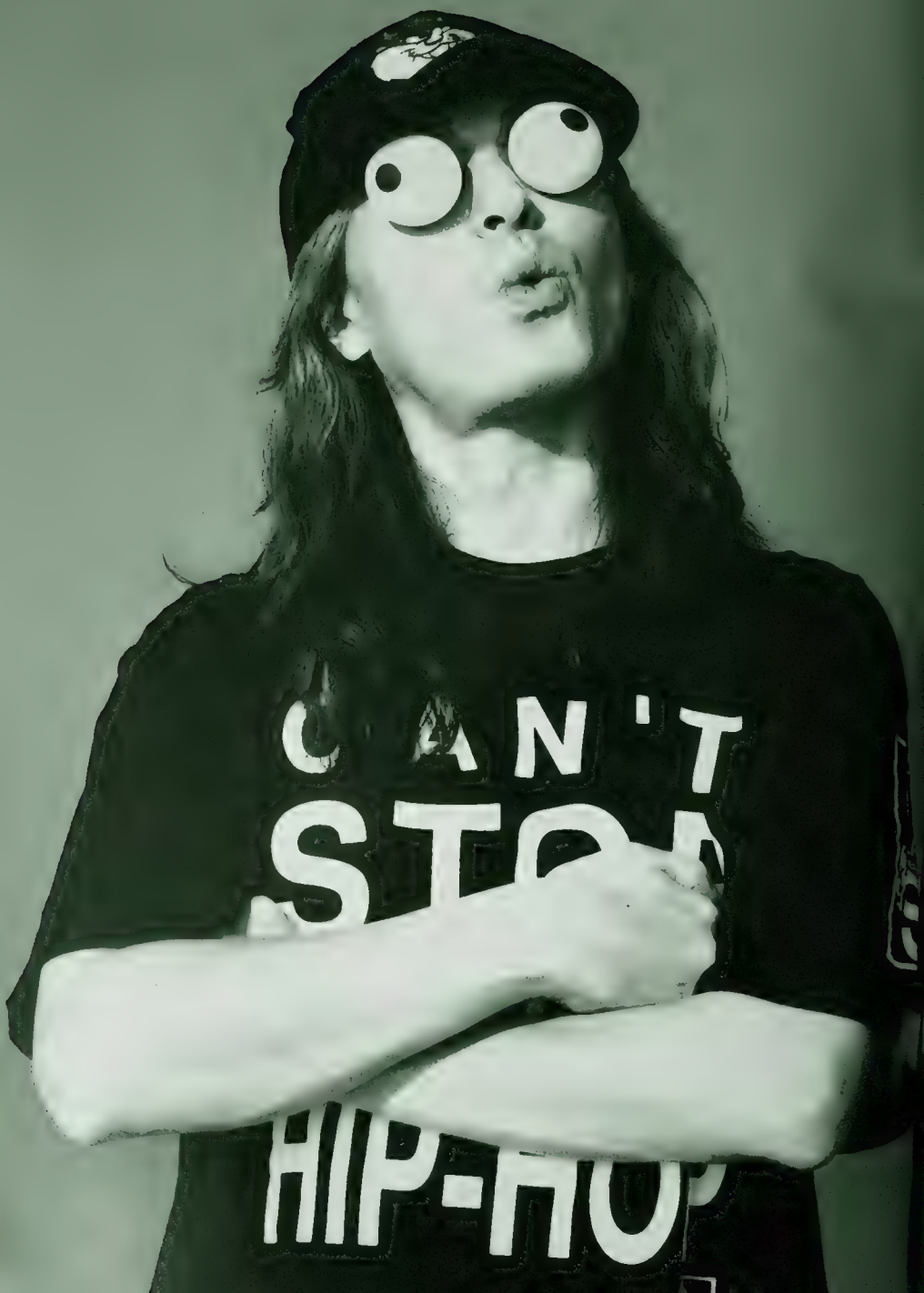




















BO





BOZO







「Welcome to The FANKS」

宇都宮隆は高々と右手をあげた。  
ロックスターらしい豪やかな姿。  
その人さし指の先に50000人の歓声が震えた。  
その一点で50000の興奮が核反応を起こしたように見えたのは'88年夏のこと。

その頃、18歳の石井英樹はアパートの部屋でひとり悶々としていた。続けていた野球に見切りをつけて、望んで進んだ音楽の道だったが、その先に一点の光も見つけられなかった。腹に内臓で学校を休んで、好きなベースの練習。でも、このままでは駄目だ。東京へ行く。目指すはプロのベーシスト。

「どうや? ソロでやってみたいか?」  
せっかくなの誘いだったが、宇都宮隆は首を縦には振らなかった。いつもバンドの中で生きてきたから、ソロ・ヴォーカリストという言葉にリアリティーがなかったのだ。しかも向こうとろけんような快活な中、彼の音楽的な欲求は満たされていたのだから。

その頃、石井英樹は作曲に夢中になっていた。続けてきたベースをあきらめ、これからはコンポーザーとして活躍を見たいのだ。ひとつの挫折とひとつの希望の交差点に彼はいた。

その結果が花開きかけたのは'91年12月のこと。Epic/Sony Recordsの「Face To Faceオーディション」に合格した。俺にもできそうだった。できるかもしれない。できないはずはない。できる。やるしかない。あまたの天才たちから輝かした足跡を残している世界に彼はダイブした。

その頃、宇都宮隆は終焉に向けて疾走していた。断末魔の叫びのようなサウンド。世紀末を予感させるリズム。それが彼の中で眠っていた野性を呼び覚ましたのかもしれない。そして、ひとり立ちする自信と音楽的欲求を芽生えさせたのかも。

「はじめまして。石井です」

「宇都宮です」

すでにロックスターとして存在している大物。まだなんの軌跡もしていない新興者。だが、ふたりは出逢った。無口な人。それがお互いの印象だった。

ソロ活動という道を歩き始めようとしていた宇都宮隆。音楽界進出の道を模索していた石井英樹。その点ではお互いに「求めていた」のだ。何かを求めている者同士の出逢い。求めていた……宇都宮隆は未知の才能を、石井英樹は大きなステップ・ボードを。

それから数ヶ月後の出来事。無口な新人作曲家がスタジオの隅で小さくなっていること、無口なヴォーカリストがいきいきと歌いだした。ふだんの静かなものごさかやうのう。迫力がある。光っている。まるで別人のよう。というよりも、この歌っている姿が本来の宇都宮隆だと石井英樹は思った。

何度も夜明けまで酒を飲んだ頃。

「次はギターでも曲を作ってみないか?」

宇都宮隆が石井英樹に提案した。  
そして、はじめてのギターでの作曲。その曲がT.UTUの1stシングルに。「Trouble In Heaven」だ。

ふたりは不思議な感觸をつかんでいた。宇都宮隆は作曲のためのテクニカル・ソフトを見つけた気分だった。打ては書く體のような才能を感じていた。石井英樹は自分の中の未開の地を見つけた気分だった。自分がドライバー（運転手）ならば、とんでもないお客が埋まっていそうな、未開の地への強力なナビゲーター（案内人）のような才能を相手の中に見つけていた。

その感觸はT.UTUの2ndアルバム「WaterDance」のレコーディングを通じ、さらに確かな手応えへと変わった。宇都宮隆は公私の相棒として石井英樹を任命。二人三脚の作曲り。ふたり一組での夜遊び。1年のうち350日は顔を合わせる日々（ホントマかいな?）。そういう関係に名前がついた。

BOYO-BOZO。

気の合う仲間。楽しい仲間。いいヤツ。的な意味だそう。

T.UTU with The Bandの2回目の全国ツアーには、正式なベーシストとして参加した石井英樹。「鼓」の字がつくほどの売れっ子ミュージシャン達に囲まれての演奏。この大舞台を決断したのは宇都宮隆。やるか。な。やるか。や。や。や。や。や。や。期待料込みの決定。リハーサル中はドキドキでも、ライブ中はわがもの顔なのが石井英樹。高いハードルを与えては相棒を鍛えるのか宇都宮隆。そのハードルを飛び越えて（たまには下をくぐったりしながらも）クリアした石井英樹。いい関係は自然にどんどん深まるものらしい。ふたりは実感していた。

「94年春。宇都宮隆は大仕事を終えた。

「ボクたちを愛してくれたすべての人に感謝します」

宇都宮隆は涙々と顔をさげた。

その背中から発せられる熱に50000人かき合った。しかも2夜連続。ひとつの時代に大きな大きなビリオドを打った。そして、大きな足跡が残った。だが、彼の軌跡は終わらない。

一方の石井英樹も作品を発表し続けた。渡辺美里という希代のヴォーカリストへの楽曲提供という形で。彼女の瞳を通して、彼のメロディは世の中に広がっていったのだ。T.UTUと美里に認められたコンポーザー。それだけでも十分なネームバリューだ。しかもその上にベスト10入りのシングル曲も手がけて、ヒット曲作りのノウハウも手にいれた。

夏。ふたりは部屋にこもる。石井英樹の部屋。だが、あの頃のような悶々とした不安は彼にはない。もうひとりの彼にも彼では

違う意欲があった。リズムが鳴る。笑い声が起る。和音が決まる。酒も飲む。服脱ぎもする。犬と遊ぶ。猫の顔を見る。メロディの誕生。思索する。いくつものアイデアが湧いては現れる。また笑う。100mダッシュみたいな勢いで制作は前進する。いいメロディだなと、ほめ合う。また酔っばらう。ちよっとと休むか。ちよっとのつもりが、そのまままで。

世の中には見えないところでBOYO-BOZOは動き続けていたのだ。楽しく、そして、勢よく。遊び仲間だったふたりが、作曲仲間だった彼らが、新しい企画へ向かっていた。

こうして時間をさかのぼってみると、不思議でもあり、今しなかったタイミングでもある。BOYO-BOZOのデビューは。

「リーダーの宇都宮隆です」

「サブリーダーの石井英樹です」

まずは二人組から。最小限の人数で最高の楽しさを目指すチーム。そこが原点だ。レコーディング・スタジオでもふたりが楽しむ。制作という行為を満喫していた。

「おい。ギターのチューニングだけで、何かおかしくないか?」

「え? ばれちやいました?」

石井英樹がすっと口を開いた。宇都宮隆は苦笑。せっかちで大雑把だけど、いい曲を書く新人。おっとりして口数は少ないが、存在感のあるリーダー。ひとりの作曲家として、より深く徹底的にレコーディングに臨むた有様。サウンドクリエイターとしての才能もはつきり現れる。あらゆる場面で行くのか、左に行くのかを決定するベテラン。ふたりの関係は今まで以上に親密に。

ふたりから伝わってくる楽しげな様子。ふたりは音楽を表現すると、BOYO-BOZO MUSICになるのだろうか。彼らにルールはない。禁止事項も、規則もない。

BOYO-BOZOは楽しい仲間という意味だから。楽しい仲間は一たりきりじゃないから、これらももっともっとパワーアップ。

メンバー増加の運もある。レコーディングに集まった顔ぶれも、ある意味ではBOYO-BOZO仲間だし。ライブに参加するミュージシャンもBOYO-BOZOの準成員。新しい仲間が増えるの大歓迎。ならば、今ここで開演を楽しみにしている人も、家に帰ってライブの余韻にひたっている人もBOYO-BOZOのひとりということだ。BOYO-BOZO加入の条件は甘い。まずは宇都宮隆と石井英樹と楽しむこと。次に音楽と遊びが好きなこと。そして、いいヤツであること（これは自薦他薦を問いません）。これくらい。

今度の夏には、キミの物語が載ったパンフレットがあるかもしれないね。





## TAKASHI UTSUNOMIYA 宇都宮隆

1951年10月25日、東京生まれ。血液型O型。33年、小栗旬臣、木村尚豊とともにTM NETWORK 結成。84年EPIC/SONYよりデビュー。90年にTM NETWORKのアルバム、11年94年までの4年連続シングル、アルバム2枚、ビデオ3巻をリリース。95年TAMAMは解散した。同年がVの活動開始。12月にシングルと秋、アルバム2枚、ビデオ3巻をリリース。93年から94年にかけてCT UTU with The Blackとしてライブコンサートツアーを行う。94年5月TM NETWORKは、T UTUのWater Dance で復活していた石井昌治と共に楽曲も制作し始める。そして、石井とのチームBOYO-BOZOとして今年5月21日シングル「JUMP=Jumpin' Kixs Symphony」でデビュー。6月21日には6曲入りアルバム「ACROBAT」も発売。6月から7月にかけてBOYO-BOZOのコンサートツアー「ALIVE」(全国6都市10公演)を行う。

## YASUSHI ISHII 石井俊師

1970年1月10日、栃木県生まれ。血液型A型。高校卒業後に70のベニスを目標に、栃木より上京。20歳で東京から作曲に目覚め、91年に、EPIC/SONY FACE TO FACE AUDITIONに合格。22歳で東京から楽曲を提供。同時期に宇都宮隆と出会う。93年5月、宇都宮隆(T UTU 名義)の/ロ・デビュー・シングル「Trouble In Heaven」を作曲。93年2月発売のT UTU 1st アルバム「BUTTERFLY」に4曲を楽曲提供。T UTUの2nd アルバム「Water Dance」では、BOYO-BOZOとして宇都宮隆と8曲を共同制作。1曲を提供。アランや石井と共参加。94年1月から4月に7回にわたってコンサートツアーにメンバーとして参加。宇都宮隆がTMNを結了後、共同で楽曲制作を続け、今年5月に本格的に宇都宮隆とのチームBOYO-BOZOをスタートさせる。提供作品は「ワリー・ゴランダー」「いつかきっと」(渡辺良児)「冬の戦艦」(伊豆田洋二)など。

## AKIRA NISHIHARA 西平彰

アランジ、キーボード。1958年東京都生まれ。河田村二ムエノチックス、オフォーのサポートなどの演奏活動と並行して数多くのアーティストのアランジ、「ロウフェ」を手掛ける。93年、4月東京からサポート・アルバムデビュー。T UTUの/ロ・アルバム「BUTTERFLY」「Water Dance」にアランジ参加。そしてBOYO-BOZOにはアランジャー、プロデューサーとしてコンセプト作りから参加。

## GEILA ZILKHA キラ・シルカ

コーステ。1969年生まれ。イスラエル人の父と日本人の母を持つ、日本生まれの日本人育ち。パリのガナリが学校では日本語を話すが、日本語は苦手。おもしろいユーモア感覚で年がら若い世代のファンと交流。93年、4月東京からサポート・アルバムデビュー。T UTUの/ロ・アルバム「BUTTERFLY」「Water Dance」にアランジ参加。そしてBOYO-BOZOにはアランジャー、プロデューサーとしてコンセプト作りから参加。

## CHIE

ギター。96年千原ユウジのメンバーとしてCBS/SONY (現・ニルコー)よりデビュー。89年、90年解散後、博多のぐみ (ex 米米CLUB)のメンバーとして活動。93年、4月東京からサポート・アルバムデビュー。T UTUの/ロ・アルバム「BUTTERFLY」「Water Dance」にアランジ参加。そしてBOYO-BOZOにはアランジャー、プロデューサーとして参加。宇都宮隆がTMNを結了後、共同で楽曲制作を続け、今年5月に本格的に宇都宮隆とのチームBOYO-BOZOをスタートさせる。提供作品は「ワリー・ゴランダー」「いつかきっと」(渡辺良児)「冬の戦艦」(伊豆田洋二)など。

## YUKARIE

サックス。東京都生まれ。小学3年時代をアメリカ・バージニア州で過ごす。キーボード・ピアニストとしてデビュー。テナー・サクソフーンに転向。小林克也のサン・バーフ・バンド、JAGGARAに加入。その後は、三上博史、三浦孝二、田原俊彦、花田裕之、大友愛子、CHARAなどのサポート・ミュージシャンとして参加。94年、4月東京からサポート・アルバムデビュー。T UTUの/ロ・アルバム「BUTTERFLY」「Water Dance」にアランジ参加。そしてBOYO-BOZOにはアランジャー、プロデューサーとして参加。宇都宮隆がTMNを結了後、共同で楽曲制作を続け、今年5月に本格的に宇都宮隆とのチームBOYO-BOZOをスタートさせる。提供作品は「ワリー・ゴランダー」「いつかきっと」(渡辺良児)「冬の戦艦」(伊豆田洋二)など。

## KAORI ONO 小野かほり

パフォーマンス。1967年岡山県生まれ。日本大学芸術学部音楽科出身。91年CHICA BOOM!に加入。92年にはTokyo Coolest Comboでピナコト・フィグの小西氏といるバンドに参加。その後は、BROSS、小栗旬臣、木村尚豊、山田孝子、Miles S.、ヒップホップのレコーディングに参加するなど、幅広いジャンルで活躍中。

## KATSUO TANISHITA 谷下加月夫

パフォーマンス。1963年生まれ。20歳よりストリートダンスを始め、25歳で渡米。様々なスタイルを学ぶ。26歳の時「KING OF FUNK」TONY TEEZと出会い、氏のバンドでストリートダンスの修行を積み始める。同年、インフォーマー・ミュージック・イン・ニューヨークを結成。今年、東京のクラブ・シーンと音楽関係の「movement of hope」に出演。

## YU-KI ARAI 新井勇気

パフォーマンス。1974年生まれ。ロサンゼルス・ロサンゼルスで活動。12歳の頃からダンス・パフォーマンスで活動。93年にTONY氏がリーダーで率いるダンス・グループ「Y-NOT SPIRAL」の日本東京公演メンバーとして参加。94年9月には東京で活動。クラブ・ダンス・パフォーマンスを続け、今年、東京のクラブ・シーンと音楽関係の「movement of hope」に出演。

## MIDORI MAEJIMA 前嶋みどり

パフォーマンス。1962年生まれ。幼少の頃からダンス、音楽関係の活動に力を入れている。93年に、東京からダンス・パフォーマンスに転向。当時、東京からダンス・パフォーマンスに興味をもつ、TONY TEEZ DANCE WORKSHOPに参加。氏がリーダーを務める。以後、ジャズ、モダン・ダンスの分野で活動。今年、東京のクラブ・シーンと音楽関係の「movement of hope」に出演。

## BOYO-BOZO / ALIVE

07月22日 (木) 仙台サンプラザ / 7月5日 (木) 名古屋市民会館  
08月24日 (土) 大阪厚生年金会館 / 7月6日 (木) 名古屋市民会館  
09月25日 (日) 大阪厚生年金会館 / 7月9日 (日) 中野サンプラザ  
06月27日 (水) 福岡サンパレス / 7月10日 (月) 中野サンプラザ  
08月30日 (金) 日本武道館 / 7月14日 (金) 札幌市民会館



## DEBUT ALBUM

**ACROBAT**  
EPC81610 (¥2,200税別) 1st  
Bang, Bang, Bang!  
JUMP=Jumpin' Kixs Symphony  
GAMBLE=JUNGLE  
DARKSIDE OF LOVE  
DREAMS MUST GO ON



## DEBUT SINGLE

**JUMP**  
Aomori Kixs Symphony  
EPC81611 ¥1,000税別 1st





**BOYO-BOZO ALIVE**  
**STAFF**

PRODUCTION MANAGER : KEN-ICHIRO ISHIZAKA (M-TRES Inc.)  
 ARTIST MANAGER : MASAKI TATSUOKA (M-TRES Inc.)  
 ARTIST MANAGER : TANASHI YOSHIKAWA (M-TRES Inc.)  
 STAGE MANAGER STAGE DESIGN : KATSUHIKO HAGINAWA (SHOWER LTD.)  
 STAGE MANAGER : AKIHIKO YAMASHINA (SHOWER LTD.)  
 P.A.SOUND CREW/CHIEF ENGINEER : AKIRA SHIMURA (STAR TECH Inc.)  
 MONITOR ENGINEER : TETSUYA HASEGAWA (SOUND CRAFT Inc.)  
 SOUND ENGINEER : KOJI ICHI HIROKAWA (SOUND CRAFT Inc.)  
 LIGHTING CREW/LIGHTING DESIGNER : YASUMASA YUASA (YJ)  
 VARILITE : ATSUSHI SASAYA (VARILITE ASIA)  
 LIGHTING OPERATOR : KAZUMI SHIBATA (YJ)  
 YOSHIKO HAMADA (LIGHT MAGIC)  
 KATSU HARU SUGA (KRYPTNUM Inc.)  
 STAGE DESIGN : HIRONOBU YAMAMOTO (CREATION)  
 STAGE CONSTRUCTION : MASAHIRO IGUCHI (CREATION)  
 SHINJI ADACHI (CREATION)  
 KENGO SUZUKI (CREATION)  
 MANIPULATOR : TSUTOMU YAMASHITA (DEEP)  
 EQUIPMENT TECHNICIAN : TOHRU SAITO (ALL IN ONE Inc.)  
 SHIGEO MATSUYAMA (ALL IN ONE Inc.)  
 MASATO OJI (SOUND CREW)  
 TRANSPORTATION : KENJI INOUE (SUNPLANT PROJECT SERVICE)  
 HITOSHI ASAMI (SUNPLANT PROJECT SERVICE)  
 TAKAMITSU NAKANISHI (SUNPLANT PROJECT SERVICE)  
 MERCHANDISING : AKIHITO MITO (TAPHS)  
 CLOTHES DESIGNER/STYLING : YOSHIHIRO SUZUKI (GORI international Inc.)  
 REIKO DOI (GORI international Inc.)  
 SACHIKO KUDO (GORI international Inc.)  
 HAIR&MAKE UP : YOSHIO YOKOHARA (FELLOWS)  
 FUYUMI GITOH (FELLOWS)  
 RIE INUBUSHI (FELLOWS)  
 A&R DIRECTOR : MASAHIRO OHARA (Epic/Sony Records)  
 YOSHIAKI MATSUDA (Epic/Sony Records)  
 PROMOTION : KEN-ICHI HIROSE (Epic/Sony Records)  
 YUKIKO SAI (M-TRES Inc.)  
 PRODUCTION DESK : NORIKO/KEIKO (M-TRES Inc.)  
 EXECUTIVE PRODUCERS : SHIGEO MARUYAMA (Sony Music Entertainment)  
 EJI KISHI (Epic/Sony Records)  
 YUJI KOSAKA (Epic/Sony Records)  
 SHIRO ONO (Epic/Sony Records)  
 PROMOTER (TOKYO) : KUNIO WATANABE (DISK GARAGE)  
 (SENDAI) : FUMITOSHI SATO (G.I.P.)  
 (OSAKA) : YUJI SEKIOKA (KYODO OSAKA)  
 (FUKUOKA) : TSUNEHIRO KUSUMEGI (KYODO NISHI NIHON)  
 (NAGOYA) : TAKESHI MIYAZAKI (SUNDAY FOLK PROMOTION)  
 (SAFFORO) : NOBORU KAIEDA (WESS)  
 SPECIAL THANKS : A PROMOTION  
 DB MUSIC  
 MANGO MANGO  
 M.O.G  
 NAZZ  
 TONY TEE PROJECTS JAPAN  
 TEAC  
 YAMAHA R&D  
 EDITORIAL  
 ART DIRECTION/DESIGN : NOBUAKI TAKAHASHI (bahaty)  
 DESIGN : AKIHIRO KUBO (bahaty)  
 PHOTOGRAPHY : NICCI KELLER  
 ASSISTANT PHOTOGRAPHY : ALAIN SOLOIN



